

神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



学校だより

No. 2 さいたま市立神田小学校
令和4年 4月28日発行 電 (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

当たり前こそ有難う

校長 米玉利 優子

柔らかな陽射しが若葉を明るく照らしています。本年度最初の授業参観・懇談会では、たくさんの保護者の皆様に御来校いただきありがとうございました。各クラスで役員や係をお引き受けいただいた皆様、1年間どうぞよろしく願いたします。

ある朝のことです。その日の空模様のように、今にも泣き出しそうな1年生に、ずっと寄り添う6年生がいました。「ありがとうね。」と声をかけると「困っている人を助けるのは当たり前ですから。」とにっこり笑ってくれました。「当たり前」という言葉をこれほどかみしめた日はありません。「困っている人を助けるのは当たり前」と、私達大人もそう胸を張って言えるのか、自らに問うた朝でした。そして、神田小学校の6年生が、自然に人を支え、それを当たり前と言えることを、とても誇らしく思いました。このようなあたたかい心をもつお子様を育ててくださっている保護者の方にも心から感謝いたします。

「先生は僕のことを自分のことのように大切にしてくれたね。一緒に笑い、一緒に泣き、一緒に怒ってくれた。それが僕にとって1番嬉しいことだった。これからもずっとそんな先生でいてね。」二十数年前、神田小学校で初めて卒業生を送り出した時にもらったこの言葉は、教師として生きる私の指針となりました。「自分のことのように大切にする」もしかすると、これも「当たり前」のことかもしれません。誰もが、身近な人のことを自分のことのように考えたり、遠い世界で起きていることも「自分だったら…」と考えたりする。そんな当たり前のことを皆ができたなら…想像するだけであたたかい気持ちになります。「当たり前」の反対語は御存知の通り、有ることが難しい「有難う（ありがとう）」です。「当たり前」に思っているけれど、有難うと思うべきこと」は私たちの周りにたくさんあるのかもしれない。

役員を引き受けてくださった方、下級生に寄り添い登校してくれる上級生、雨の日も暑い日も毎日、登校指導に立ってくださる交通指導員さん、防犯ボランティアの方々、地域の皆様。これも当たり前のことではなく、有難いことだと痛感します。そして、私と出会い、私を育ててくれた神田小学校の教え子たち、保護者の皆様にも改めて、心から有難うを伝えたいと今、強く思います。

連休が始まります。事故防止に努めると共に、お子様と一緒に、世の中にある「当たり前」に見えるような有難う」をたくさん見つけてみませんか。今月も教職員一同、すべては子どものために、心を一つに努力してまいります。保護者の皆様、並びに地域の皆様には、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。